

天草市 校務 DX 計画

1 本市の現状

令和３年度に統合型校務支援システムを導入し、手書きで作成する資料が大幅に削減した。併せて GIGA スクール環境が整備され、児童生徒への１人１台端末が配備されたため、授業での活用推進を重点的に行った。ところが、教職員自身が ICT を便利なものだと実感していないため授業活用が思うように進まなかった。校務での日常使いも並行して進める必要があると感じた。

その後、管理職対象に校務 DX の研修を実施したり、研究主任会で校内研修における教職員の ICT 活用方法を考えたりして、実際に活用する経験を通して便利さを実感してきたことから、授業と校務で同じ使い方ができるようになってきたところである。それぞれの学校であらゆる校務 DX に挑戦するようになり、校務支援システムでは、名簿情報の不必要な手入力作業が一掃され、また、教職員間では、情報共有や資料共有がスムーズに行われるようになったことで、教員の ICT 活用スキルの向上にもつながった。クラウド環境の利点に着目し、情報共有や意見集約、資料共有にクラウド環境を使う取組も増えており、これにより情報の一元管理や迅速な情報伝達が可能となり業務の効率化が図られた。

この１年間で校務の情報化は大きく変化した。新しいクラウド活用方法を学校間で共有し挑戦する姿も見られる。しかし学校間で差が大きく出ているのが現状である。

2 本市の課題

令和６年度の全国学力・学習状況調査の学校質問紙の校務の情報化に関する質問の回答結果を図１に示す。校務の効率化について「十分に取り入れている」学校は、小学校４１．２％、中学校３０．８％で、概ね全国平均と同等であった。半数以上の学校が十分取り入れていないと回答しているため、引き続き各校で確実に実施できるよう働きかけていく。

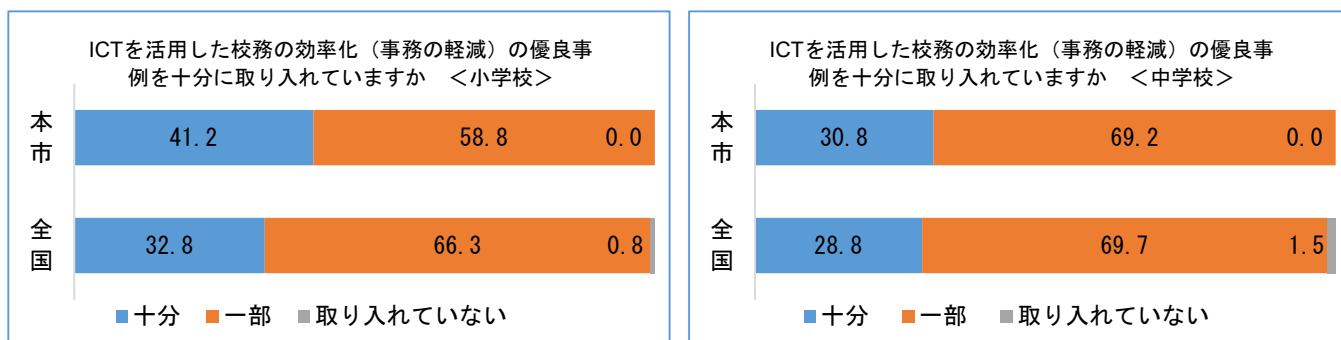


図 1

また、令和６年９月に全校が回答した文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」の結果は次の通りである。

まず、本市の多くの学校（７０％以上）で実施される項目を次に示す。これら項目については、全校で確実に実施できるように取り組んでいく。

(半分以上行っていると回答した学校の割合)	本市	全国
保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	7割以上	60.6%

学校徴収金について、現金徴収ではなく、口座振替、インターネットバンキング等を活用して徴収金の徴収を行っていますか。	7割以上	76.8%
職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化していますか。	7割以上	78.5%
教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか。	7割以上	77.0%
授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いていますか。	8割以上	45.9%
教職員への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	7割以上	66.5%
教職員は校務用の個人メールアドレスが付与され、それを業務で利用していますか。	8割以上	82.2%
学級・学校経営に有効な教育データ等が、必要な職位に応じてアクセス権限が設定されるとともに、活用しやすいように整理され、閲覧できますか。	8割以上	83.4%

次の項目は、全国平均と比較したところ実施率が10%以上落ち込んでいた。すでに実施している学校の活用状況を共有し、さらに多くの学校で実施できるよう、重点的に取り組んでいく。

(半分以上行っていると回答した学校の割合)	本市	全国
児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け学校内で集計していますか。	5割程度	75.5%
業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付ける体制を整えていますか。	1割程度	27.0%
学校から保護者へ発信するお便り・配布物をクラウドサービスを用いて一斉配信していますか。	4割程度	58.9%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしていますか。	3割程度	39.1%
授業研究会や校内研修等をハイブリッド（対面・オンライン）で実施していますか。	1割程度	34.3%
教職員から学校へ提出する事務手続き資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。	1割程度	24.1%

次の項目は、FAXや押印廃止、ペーパーレスに関する項目の結果である。FAX使用について、一部の学校で使用されていたので、問題点を確認し改善を図っていく。

(あると回答した学校の割合)	本市
「FAXの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の日常の業務にFAXを使用していますか。	20.0%
業務で押印が必要な書類はありますか。	0.0%
学校から教職員に紙で提出を求めている書類はありますか。	0.0%

3 校務 DX に向けた取組方針

(1) クラウドを活用した校務効率化の推進

「2 本市の課題」のとおり、令和6年4月時点の校務の効率化は、半数以上進んでいない状況である。しかし、最近では学校間での情報交換・情報共有が密になり新たな改革に挑む学校が増えている。また、業務・帳票をさらに見直し、FAXの使用、紙媒体での提出書類や押印を原則的になくしていく。ただし、この取組は本市単独では解決できない課題もあり、県との連携を進めていく。

(2) 次世代校務支援システムの導入

現状では、従来からの校務支援システムとクラウド環境との併用をしており、どのように使い分けるか分かりにくい課題がある。当面は、現状でも可能な範囲でクラウド環境のデータと校務支援システムのデータの連携を進め、少しでも使いやすい環境を整備していく。一部の学校では、職員サイトを活用して情報の一元化を実現しているので、その便利さと方法を全校に広めて業務のますますの効率化を図っていく。

次世代校務支援システムの導入については、現在使用している校務支援システムの契約更新を令和7年度中に行うこととしており、これに合わせて検討を進める。

(3) 教育データ活用の推進

1人1台端末とクラウドの活用により、従来の紙媒体だけでは収集できなかった学習活動での各種教育データ（端末の操作、教材・学習ツールの利用履歴 など）がログとして取得することが可能になった。この学習ログに加え、従来から記録している出席などの情報を統合し、可視化・分析するダッシュボードの整備に取り組む。先進地域の実践を参考に整備を進め、校務と授業の両方の改善につなげていく。